



©2007「天然コケッコー」製作委員会

原作の人気コミックと同じ石見地方を舞台に
豊かな自然と、家族のような学校の友達や村の人々に囲まれ
少女が少しずつ成長していく あたたかな感動映画

「天然コケッコー」

2007年夏休み全国ロードショー

主人公・そよが通う全校生徒6人の田舎の分校に、ある日、東京から大沢君という都会の匂いを放つかわいい転校生がやってくる…。二人の初恋が生まれるまでの甘酸っぱいドキドキを、周囲の人たちや自然が優しく見守る様子を描いた、くらもちふさこ原作の人気コミックの映画化。舞台となる石見地方の美しい四季を収めるため、2006年の夏・秋にわたって石見ロケが行われた。

2007年日本／製作：「天然コケッコー」製作委員会／企画・プロダクション：ピクニック、アスミック・エース エンタテインメント／配給：アスミック・エース
監督：山下敦弘 『リンダ、リンダ、リンダ』／原作：くらもちふさこ『天然コケッコー』（集英社刊）／脚本：渡辺あや『ジョゼと虎と魚たち』
出演：夏帆、岡田将生、柳英里沙、藤村聖子、夏川結衣、佐藤浩市

「三井のリハウス」テレビCMやケータイ刑事・銭形零役などで注目されている、若手女優夏帆が天コケの主人公そよ役で映画初主演。純真なそよ役そのままのような夏帆ちゃんに石見の印象を聞いてみた。

あんなに美しい田舎を体験したのは初めて
ロケバスから降りてすぐに写真を撮って
両親に送りました

年が違う出演者との思い出も
石見の人のあたたかさもいい経験
また行きたいと思っています

仕事で色々な地方に行きましたが、海と山があんなに近くにある場所は初めてで驚きました。すごい事ですよ！映画のワンシーンで登場する、田んぼに挟まれた一本道では、ロケバスから降りてすぐに写真を撮りまくってメールで送りました。それから、星空の大きさに感激！東京の夜空よりずっと大きかった。ロケバスが入れない山道をトラックの荷台に乗って移動したり、とっても楽しい思い出ができました。



同年代、少し年上、少し年下の学生たちが映画に登場するんですが、これらの役のみんなが仲良く、楽しくて「ひと夏のいい思い出」のようなロケでした。秋に訪れたときには、夏の「何でも初体験」の印象とは違い、馴染んだ場所に戻ってきた感覚がありました。地元の人はいい人ばかりでもとても親切にしてくださいました。宿泊先のホテルを経営するご夫婦に私と同じ年のお子さんがいて、夏休みの宿題の心配をしてもらったり、毎日違う手作りの料理を食べさせてもらったりとお世話になりました。エキストラの方が集まってくれました。そこでは、お子さんの名前を「そよ」ちゃんと名付けるほどの『天コケ』ファンの方が参加されていました。地元のみなさんと美しい風景とチームワークのいい撮影隊とで、いい映画に仕上がっていると思います。女優としても、中学最後の夏としても、いい経験をさせていたいただきありがとうございます、ございました。機会があれば、ぜひまた行きたいと思っています。

「行ってきます」を「行って帰ります」という石見弁はかわいくて
素敵な方言ですね

方言まる出しのそよ役のために、言葉を猛特訓して撮影にのぞきました。石見弁はイントネーションの上がり下がりが微妙で難しく、地元のエキストラの人にも教えてもらいました。学校の友達に石見弁で喋ったら「かわいい」って好評でした。

[INTERVIEW]

夏帆

KAHO

